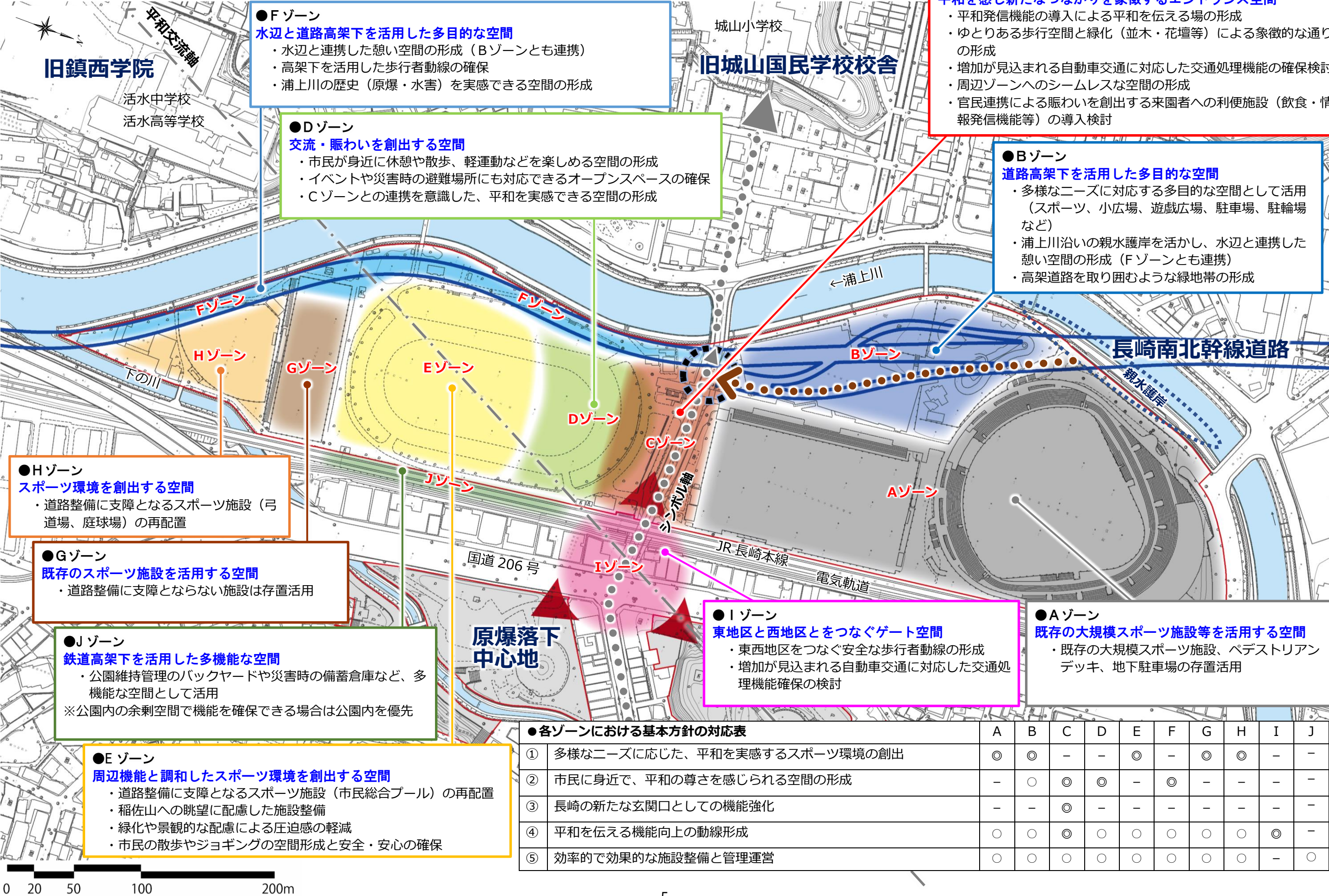


第4章 平和公園（西地区）の整備方針

4-1. ゾーニングとゾーン別整備方針

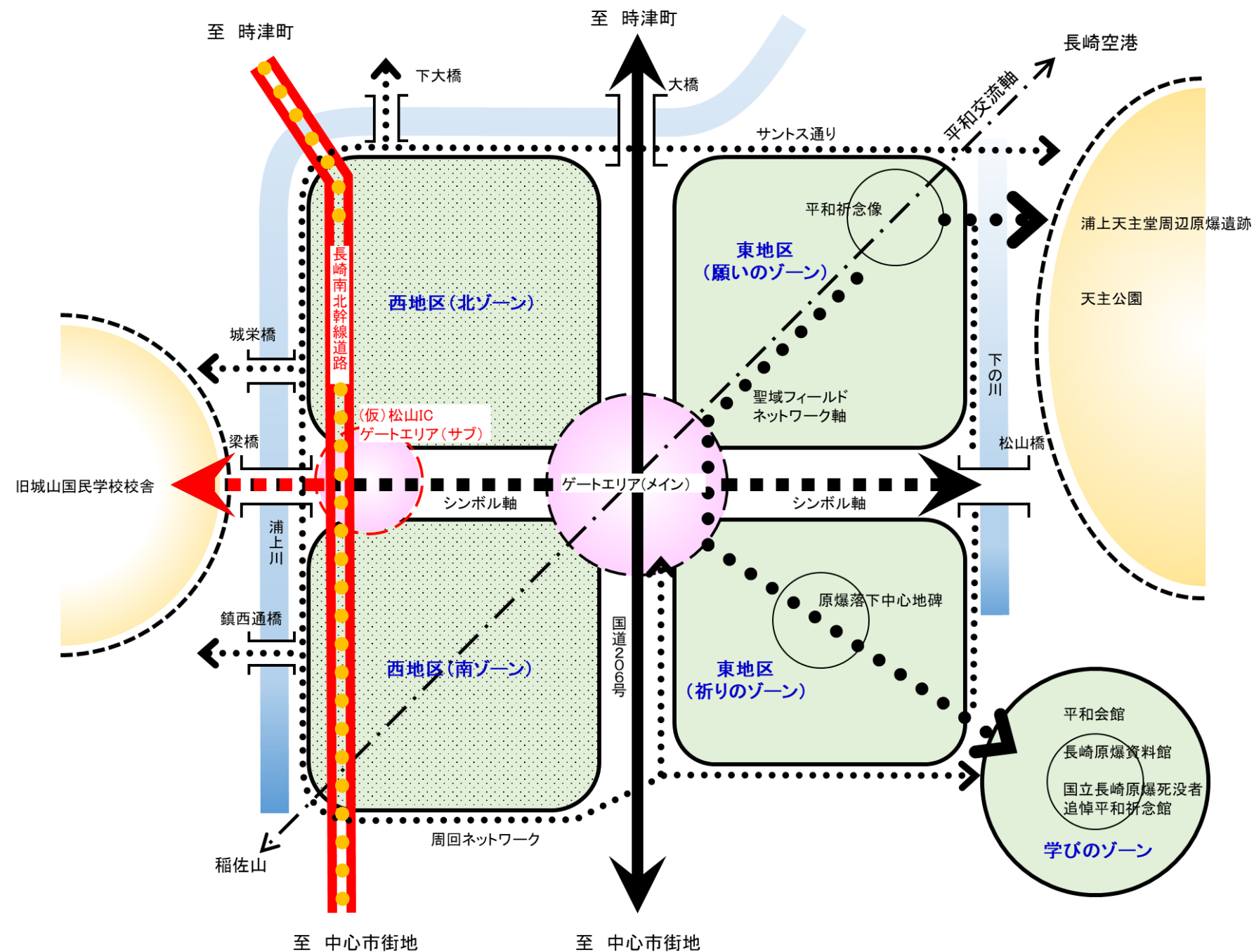


#### 4-2. 動線計画

現行計画に示されている平和公園全体のネットワークの考え方を踏まえて、車両動線と歩行者動線を定めた。

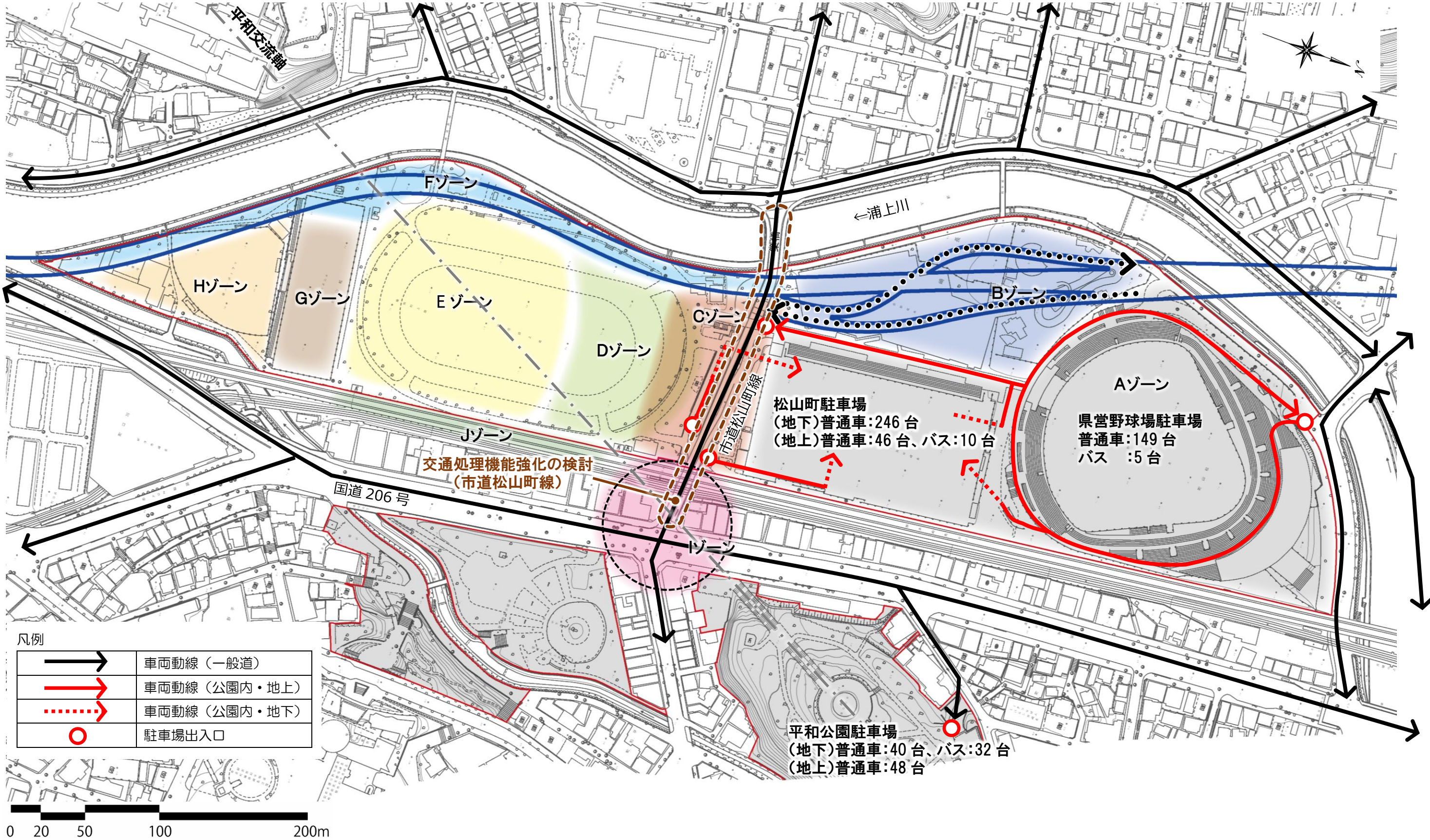
### （１）平和公園全体のネットワークの考え方

- 計画にあたっては、平和公園の東西地区をつなぐ市道松山町線をシンボル軸として形成し、それぞれの地区の南北で、東地区（願いのゾーン、祈りのゾーン、学びのゾーン）と西地区（北ゾーン、南ゾーン）に分割した。シンボル軸については、平和公園の東西地区だけでなく、周辺の旧城山国民学校校舎とのつながりも位置付け、平和学習の一端を担う施設とのネットワークを形成する。
- 平和公園の各ゾーンの中心となる部分を「ゲートエリア（メイン）」、東西地区を結ぶ市道を「シンボル軸」、各ゾーンや周辺の平和関連施設との動線を歩行者の「周回ネットワーク」として位置づける。
- 長崎南北幹線道路の整備により新たに設置される（仮称）松山 IC 周辺は、サブのゲートエリアとして位置づけ、新たな玄関口としての機能強化を図る。



(2) 車両動線計画

- 市道松山町線については、(仮)松山 IC の接続により交通量増加が見込まれることから、シンボル軸としての象徴性と整合を図りながら交通処理機能の確保について検討する。
- 長崎南北幹線道路から公園を訪れる車両は、既存の市営松山町駐車場(地下)や県営野球場駐車場(地上)、市営平和公園駐車場を活用し、新たな玄関口である(仮)松山 IC からサイン等により誘導する。
- 市道松山町線への車両の集中を緩和するにあたっては、駐車場からの車両の出口を検討する。



### (3) 歩行者動線計画

- 西地区全体を安全・安心に移動できる歩行者動線ネットワークの形成にあたっては、電車・バスの公共交通機関や市営松山町駐車場からの連続性を踏まえ、目的別に歩行者動線を分け、それを機能させるサイン等を整備する。
- Cゾーンには、西地区における歴史を伝える場をつくり、浦上川（水辺空間）、東地区、旧城山国民学校校舎につなげる動線をサイン等により形成する。
- Cゾーン（市道松山町線）は、ゆとりある歩行空間や周辺ゾーンへのシームレスな動線を確保する。
- 浦上川左岸には、憩い、地区の歴史を知るための水辺休憩広場を確保し、浦上川と稲佐山を望む眺望点とする。

